

# 令和2年度1学期 授業課題に関する調査報告

ラーニングサポート室

## 調査実施の背景

令和2年度1学期の授業が5月11日に開始されて以降、6月に入ると授業課題の負担感が強いという保護者・学生からの相談がラーニングサポート室に寄せられ始めました。その後、6講時授業期間が中頃に差し掛かった6月後半あたりから、課題負担の重さを訴える声が様々な手段で数多く寄せられるようになりました。同じころ、学務部教育推進課窓口でも同様の相談がみられました。

そこでラーニングサポート室では学務部教育推進課と協議の上、授業課題の負担感が具体的にどこから来ているのかを探るため、今年度1年生を対象に緊急に調査を実施しました。

調査の実施概要は以下の通りです。

調査対象：令和2年度北海道大学学部1年生

調査方式：Googleフォーム（回答は北海道大学構成員に限定）

調査期間：7月10日（金）～7月17日（金）

周知はELMSとtwitterを通じて行い、1830件の回答を得ました（回答率69.2%）。

## 1. 令和2年度1年生の基本的状況

調査結果の報告に入る前に、今年度1年生（新入生）が置かれている状況について概説します。

- 新入生の孤独

令和2年度新入生のうち、道内出身者は33%、道外出身者は67%であり（令和2年度版大学案内誌「Be ambitious」）、6月8日付通知「本学行動指針のレベル引き下

げに伴う令和2年度第1学期全学教育科目の授業実施方法について」の参考資料「学生滞在地調査結果」を見てみると、6月1日時点で通学可能地域にいる学部1年生はおよそ64%でした。この2つから、**道外出身者の半数程度は6月1日時点で本学周辺に移動していたものと考えられます**。政府による緊急事態宣言の発令（4月7日）から解除（5月25日）、およびそれに続く都道府県境を跨いだ移動の自粛要請（6月18日まで）の期間に多数が移動したとは考えにくいいため、**6月1日時点で通学可能地域に居住していた道外出身者の多くが4月月初までに住居を移していたと推測**できます。

こうした学生は知人・友人がおらず、土地勘がなく、外出を控えながら、これまで3か月以上にわたって初めての独居生活を送っていたこととなります。このことを裏付けるように、アンケート中の質問「困っていること、ご意見ご要望など、ぜひお聞かせください」の自由記述回答では、**コミュニケーションが取れる相手がいない、相談相手がいない、孤独**といった回答が目立ちます。

また、多くの学生が日常的なコミュニケーションの相手として**家族**（48.3%）、**北大外の友人**（40.7%）を挙げており、**本学への所属意識を強く持っていない**ことが窺えます。

- 情報の欠乏感

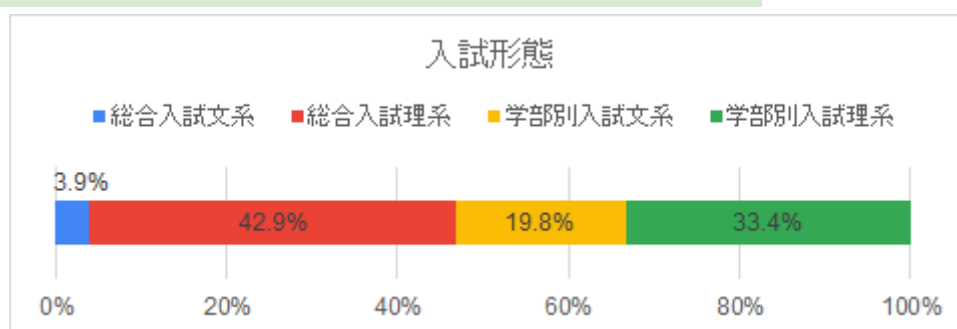
今年度の特徴として、学生が情報に飢えていたと考えられます。ラーニングサポート室のtwitterアカウントはフォロワー数が昨年度末から800以上増加しました（現在、計2940フォロワー）。これは、これまで経験したことのない増え方であり、新規フォロワーのほとんどが新入生であると見ています。アンケート回答でも、lineに加えてtwitterも相当数利用していることが窺えます。こうした**SNS上でクラスや授業ごとに自然発生的にグループが形成され、情報の共有など自発的な相互扶助**が起きているようです。日常的な相談相手として**北大生（同学年）**を挙げた学生が46.3%に上っており、活発な交流を窺わせます。

一方で、こうしたSNS上のグループに入らなければ情報収集の点で乗り遅れてしまうとの不安感が学生の間で生じているように見受けられます。また、そうした交流のほとんどは直接会ったことのない「**ネット上の交友**」であると考えられ、この結果、いわゆる「**SNS疲れ**」を窺わせるような回答もありました。

こうしたSNSの盛況ぶりは、学生が大学からの情報発信に不足・不満を抱えていることの裏返しでもあります。アンケート中の質問「困っていること、ご意見ご要望など、ぜひお聞かせください」の自由記述回答では、**大学からの情報が遅いこと、諸々の決定の理由がきちんと説明されていない**と感じられること、についての記述も一定数見られます。少なくない学生が、新年度スタート当初から本学に対しかなりの不信感を抱き続けていたことが窺えます。

## 2. アンケート結果

Q1：あなたが入学した入試形態等について教えてください。

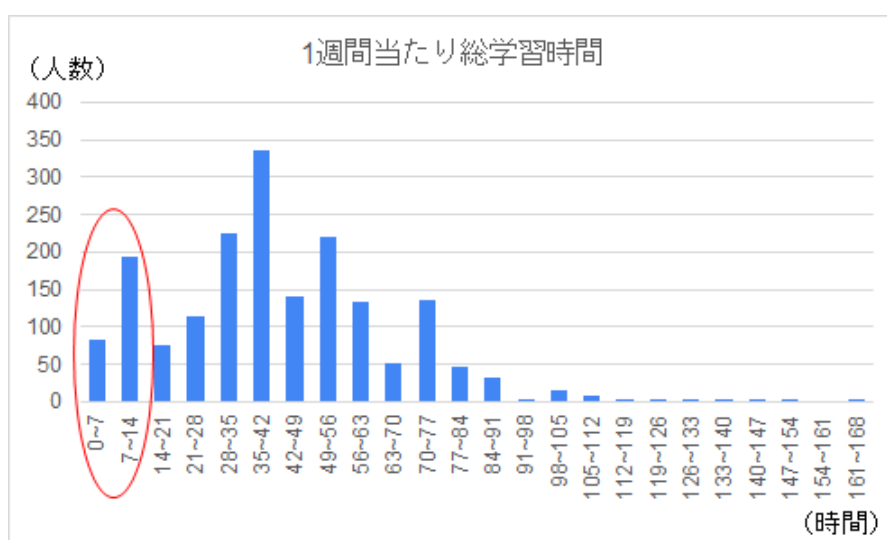


Q2：授業時間を含めた総学習時間は、1週間あたり平均で何時間ですか？

全体平均：**41.1時間**（中央値：40時間）

※2年次アンケート2019における1週間当たりの平均自習時間（講義等への出席時間を除く）は全体平均で7.85時間。授業時間（14コマ（24単位）\*1.5時間）を含めると、その差は**12.2時間**となる。

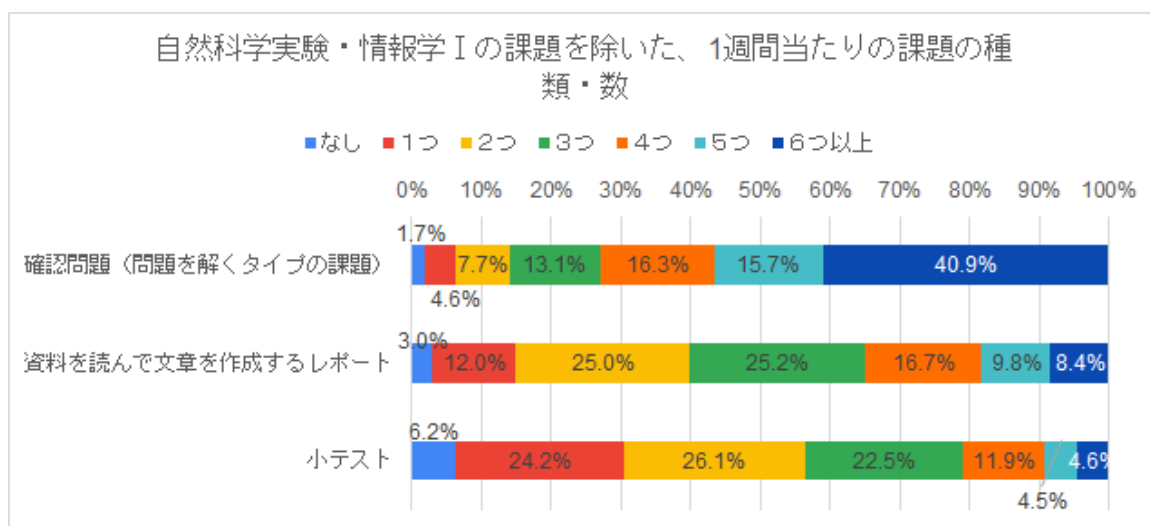
※下図赤丸部分の回答の中に、「1日当たり」と誤認した回答が含まれている可能性



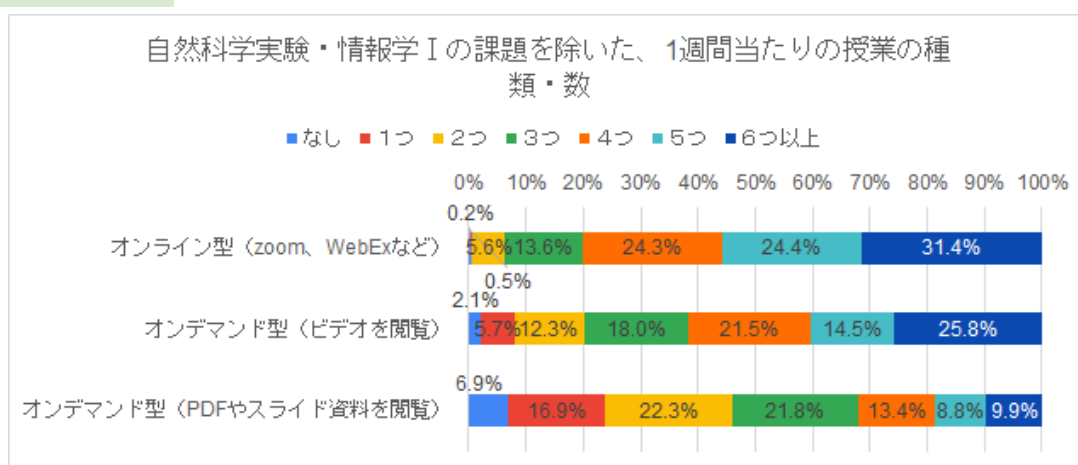
Q3：自然科学実験・情報学Ⅰの課題を除いた、1週間当たりの課題の種類・数を教えてください。

「確認問題」が週6つ以上と答えた学生が**40%**以上。

文章を作成するレポートが週3つ以上と答えた学生が**60%**。

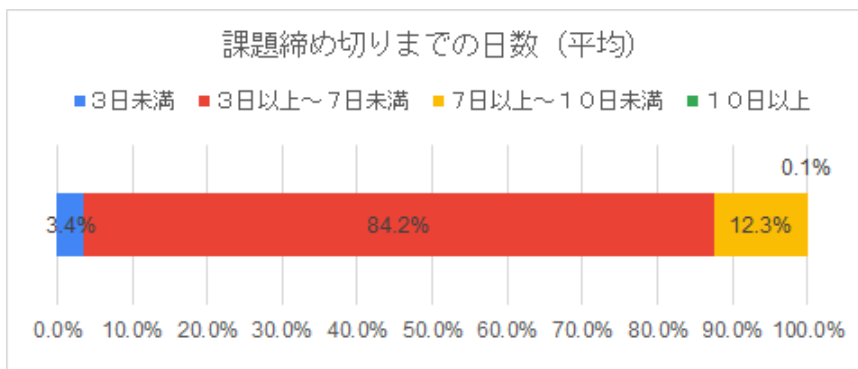


Q4：自然科学実験・情報学Ⅰの課題を除いた、1週間当たりの授業の種類・数を教えてください。



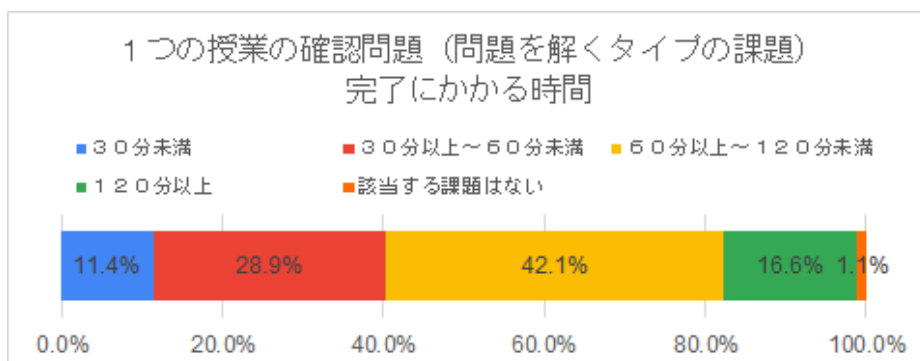
Q5：課題が課されてから提出締切まで、平均で何日程度ですか？

9割近くの学生が課題を3~7日で提出することを求められている。



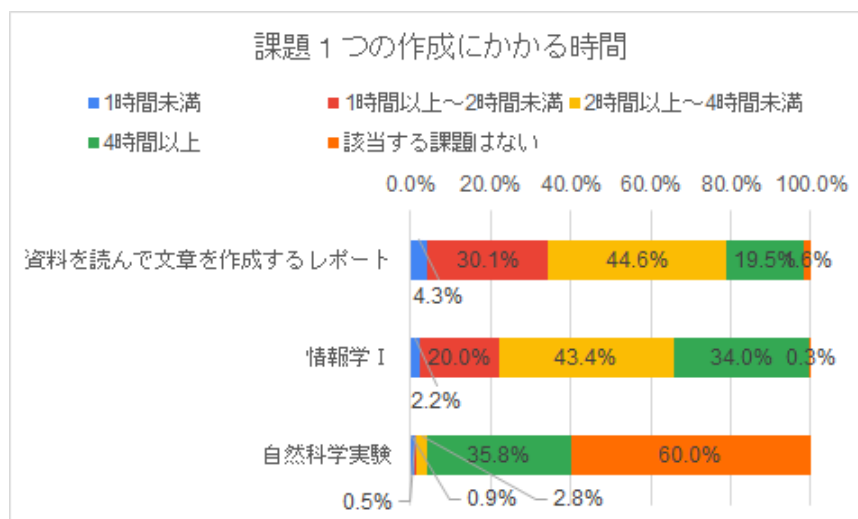
Q6：1つの授業の確認問題（問題を解くタイプの課題）完了にかかる時間は平均でどの程度ですか？

確認問題は2時間までで終わらせることが多い。



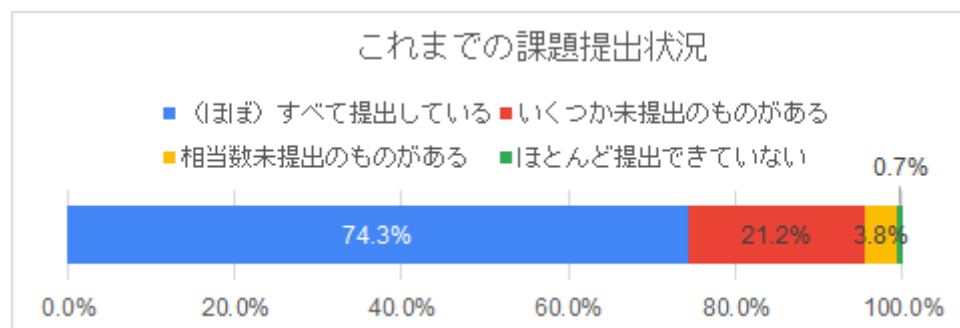
Q7：以下のそれぞれの課題1つの作成にかかる時間は平均でどの程度ですか？

文章を作成するレポートでは約2割、情報学Ⅰ・自然科学実験の課題は3割強の学生が、完成に4時間以上を費やしている。



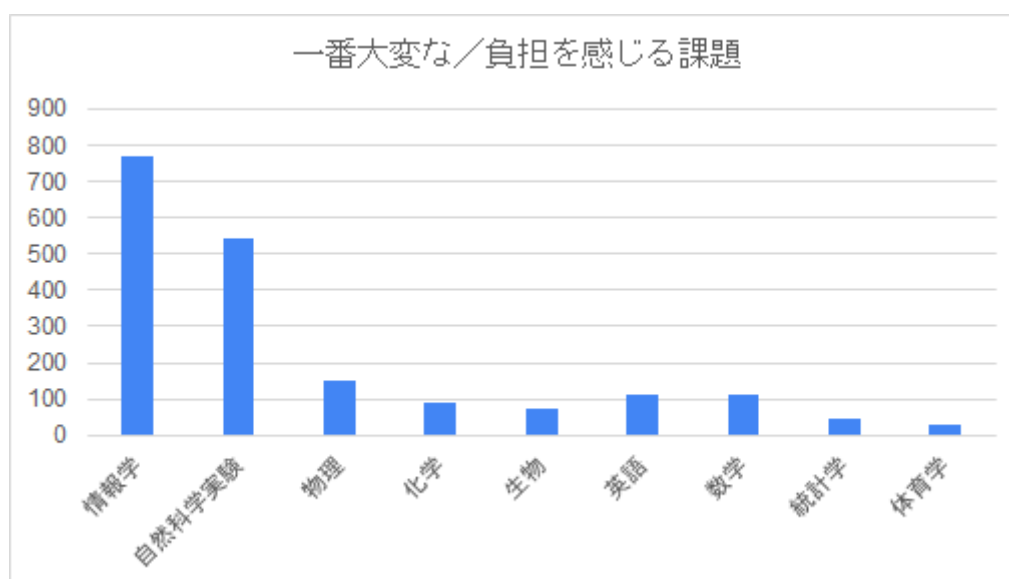
Q8：これまでの課題提出状況についてお聞かせください。

4分の3はほぼすべて提出していると回答している一方、未提出のものがあるとの回答も少なくない。



Q9：一番大変な／負担を感じる課題と、その理由についてお聞かせください。

情報学Ⅰ・自然科学実験が多い。ただしこの回答結果は例年の状況とそれほど変化がないと考えられる。またこの2つは受講者が多いことにも注意が必要である。挙げられた科目の他、「すべて」や「どれというわけではなく、積み重ねで負担感が耐えられないほどになっている」との声もあり。

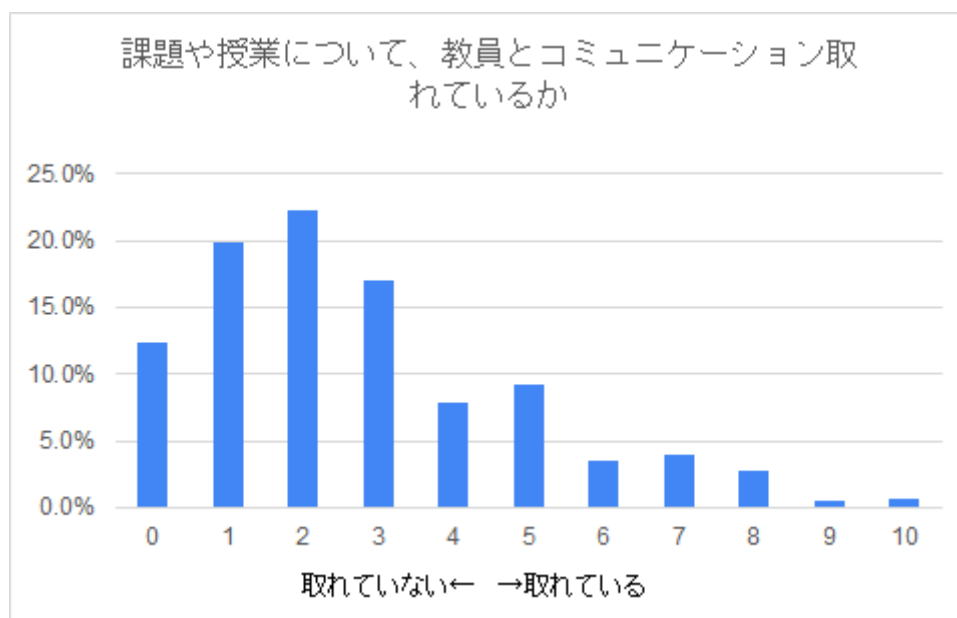


Q10：ここまでの授業で一番面白かった、興味深かった授業は何ですか？

全回答者1830人中1517人が何らかの授業名を挙げている。科目の種類は一般教育演習、主題別科目、総合科目、外国語科目、共通科目、基礎科目、いずれも含まれている。情報学Ⅰは課題が大変という声が多い一方でやりがいを感じている学生も一定数いる。

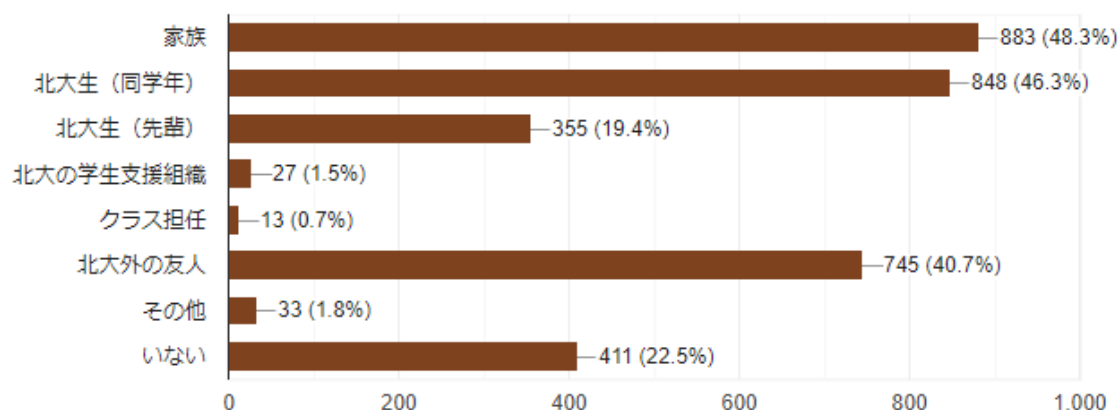
Q11：課題や授業について、先生とどの程度コミュニケーションが取れていますか？

多くの学生がコミュニケーションの不足を感じている。「**レポート課題のフィードバックが欲しい**」「**フィードバックがないためにレポート作成で進歩が感じられないまま、ただ作成するだけになっている**」「**先生の連絡先が分からない**」といった声や、「**Moodle上に資料が置かれただけの授業では、まったくコミュニケーションというものが無いので、授業による**」といった回答もあり。



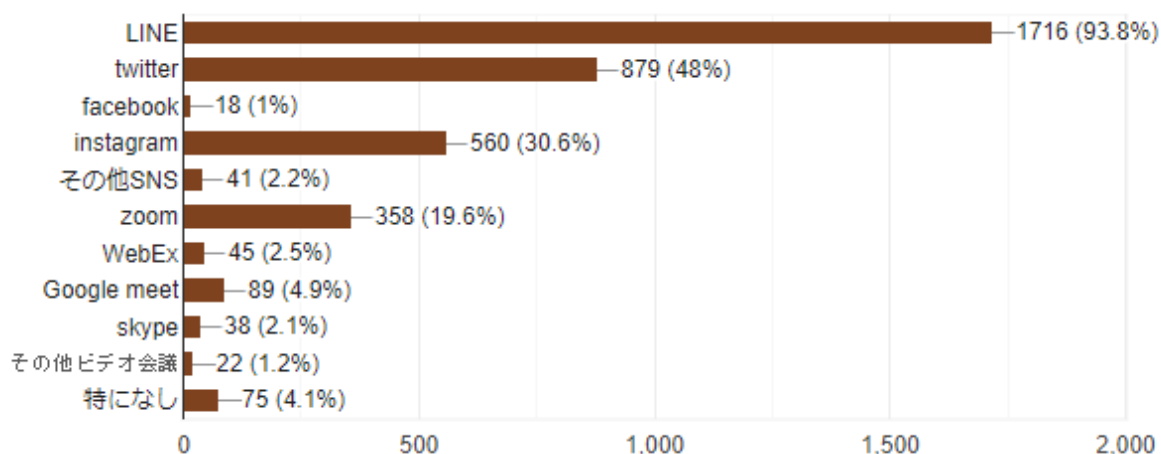
Q12：日常的に相談できる相手はいますか？該当するものを選んでください（複数可）。

多くの学生が**家族と相談**しており、**北大外の友人も大きな存在**となっている。同じ**1年生の北大生**を挙げる回答も多いが、その多くは「**ネット上のつながりのみ**」という状況であると推測できる。また、**相談相手がない**との回答者数が400人超に上っている。



Q13：コミュニケーションツールとして、日頃よく利用するものを選んでください（複数可）。

twitterでの情報収集が盛んであった印象に合致する回答結果となっている。



Q14：困っていること、ご意見ご要望など、ぜひお聞かせください。

< 詳細は割愛 >



### 3. 暫定的な結論

得られたデータについてはより詳細な分析が必要であるが、現時点で次のような結論が導かれると考えている。

- ・ 極端な上昇という訳ではないが、平均として例年よりも学習時間が大きく増えている。

- ・ 学生の負担感を一層増大させている要因として、生活バランスの困難、課題提出までの締切に常に追われている感覚、課題の意義への理解不足、学生同士・学生教員間のコミュニケーション不足、がある。

2020年7月20日作成

2020年7月30日改訂